

ストーブめぐり

目安の
所要時間

90 ~ 120 分

おすすめ
展示棟番号

市街地群

- ③
- ⑤
- ⑩
- ⑪
- ⑬

漁村群



視点

開拓の村のストーブに注目したコースです。

室内のどこに置かれているか、何を燃料にしているストーブか、煙突のある無しにも注目しながら各建物をめぐっていきましょう。

薪ストーブ

薄鉄板製のものは町のブリキ職人でも作ることができ、工夫やアイデアも職人自身によるものや注文主の要望に応じたものが主となったことで、多種多様な形状の薪ストーブが作られました。耐久性は低いものの、安くて軽く、小型であることから現在でも多く愛用されています。



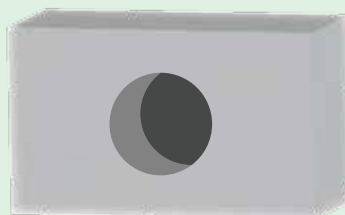
写真：旧福士家住宅の薪ストーブ

石炭ストーブ

貯炭式ストーブは長時間石炭を補給しなくてもよい、灰による汚れが少なく座敷でも使用できる、火加減の調節ができ経済的、煙突掃除が少なくすすむなどの理由から広く普及しました。



写真：旧北海中学校の石炭ストーブ



ストーブを展示していない建物でも「眼鏡石」(鍔石ともいわれる) などからストーブが設置されていたこともわかりますよ。探してみましょう！

ストーブについてももう少し知りたいという方は、旧浦河支庁庁舎の2階で展示している「北海道のあかりと暖房」展もあわせてご覧ください。



③旧手宮駅長官舎

蒸気機関車同様に石炭を燃料とする寸胴ストーブが、ずんどう 囲炉裏いろりかまち 框の中央すに据えられています。

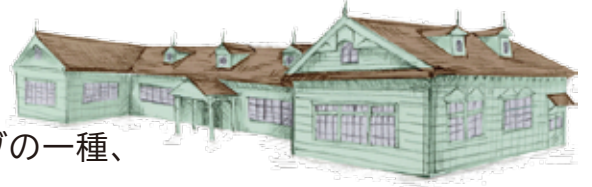


⑤旧福士家住宅

囲炉裏と並ぶように角ばった形の薪ストーブが据えられています。

⑪旧北海中学校

学校等で使用されることの多かった、いものせい 鋳物製石炭ストーブの一種、ダルマストーブが見られます。



⑬旧札幌警察署南一条巡査派出所

部屋全体を温めるというよりは、手あぶり用？のルンペンストーブ。



⑮旧山本理髪店

店のほぼ中央に薪ストーブ。正面にそびえる煙突も印象的です。



⑲旧大石三省堂支店

こちらは茶の間の動線をつぶさないように薪ストーブが据えられています。



⑳旧太田装蹄所

そうてい 装蹄作業を待つ待合所に設置された薪ストーブは、すぐ近くまで土足で近づけます。



㉓旧秋山家漁家住宅

スルメがのった薪ストーブはだんぼう 暖房だけでなく調理にも活躍？かつやく

暖房の移り変わり

北海道での冬の暮らしに欠くことができないストーブは、明治後期から広く庶民に普及するようになります。それまでは、炉で薪を焚くか、火鉢や炬燵で暖をとるぐらいでした。

開拓使が置かれ、欧米の技術を導入して寒冷地向きの住宅の普及とともに、ストーブの普及も奨励されますが、一般家庭に普及するのは安価な市販品が登場する明治40年代になってのことです。

大正末期から昭和初期にかけて都市部で薪が不足し、石炭事業の発展とともに石炭ストーブが使用されるようになります。この頃、ドイツから貯炭式のユンケルストーブが輸入されたことをきっかけに、北海道ではストーブの研究や試作がさかんに行われ、大正後半には国産の貯炭式ストーブが作られるようになります。長時間石炭を補給する必要がなく、燃焼効果も良く、煙や灰で部屋が汚れることが少ないため座敷で使えるようになりました。

番外編

明治30年代後半、当時の最新設備スチーム暖房が設置されています。

⑳旧札幌農学校寄宿舎

